

通し番号	4966
------	------

分類番号	R01-24-12-03
------	--------------

4-C P A液剤のホルモン処理により、ナス‘サラダ紫’の上果率が増加します

[要約] ナス‘サラダ紫’に対する 4-C P A液剤（商品名「トマトトーン」）50 倍液の花房散布により、収穫初期の空洞果、乱形果、つやなし果等の生理障害果が減少して、上果率が増加する。

神奈川県農業技術センター・生産技術部

連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

本県が育成した‘サラダ紫’は、平均果重が重く、収量性が高いナスである、しかし、収穫初期に空洞果等の生理障害果が発生しやすく、この点を改善することにより、さらに収量の増加が見込まれる。そこで、着果促進、果実の肥大促進、熟期の促進により、ナスに登録がある植物成長調整剤が、ナス‘サラダ紫’の収量及び障害果発生に及ぼす影響を検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1 総収量は、ホルモン処理区、対照区間に有意な差は認められない（表 1）。
- 2 上果率は、ホルモン処理区が有意に高い（表 1）。時期別の上果収量は、6 月中旬から 7 月中旬にかけてホルモン処理区が対照区より多い（図 1 A）。
- 3 栽培期間を通じた障害果発生率は、ホルモン処理区で空洞果及び乱形果が有意に低い（表 1）。
- 4 時期別の障害果発生率については、空洞果は、6 月中旬から 7 月下旬にかけて低く推移し、6 月下旬及び 7 月中旬には有意な差が認められる（図 1 B）。乱形果は、6 月中旬から 7 月中旬にかけて低く推移し、6 月中旬及び 6 月下旬に有意な差が認められる（図 1 C）。つやなし果は、7 月上旬から 8 月中旬にかけて低く推移し、7 月上旬、7 月中旬及び 8 月上旬に有意な差が認められる（図 1 D）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 植物成長調整剤 4-C P A剤（商品名「トマトトーン」）は、ラベルに記載してある内容に従って使用する。また、効果・薬害等の注意事項を確認する。

[具体的データ]

表 1 ホルモン処理が収量及び障害果発生率に及ぼす影響^z

試験区	総収量		上果収量 ^y		上果率 (重量%)	障害果発生率 (果数%)				
	(kg/株)	(個/株)	(kg/株)	(個/株)		空洞果	乱形果	石ナス果	つやなし果	色むら果
ホルモン処理区	17.4	117	9.9	65	56.6	8.7	4.5	0.5	7.0	21.0
対照区	17.2	125	8.0	55	46.0	15.8	9.2	1.3	14.0	21.5
有意性 ^x	ns	ns	ns	ns	*	*	*	ns	ns	ns

z: 収穫調査は 2019 年 6 月 14 日から同年 9 月 30 日かけて行った。(n=6) y: いずれの障害も発生していない果実を上果とした。x: t 検定により、*は 5%水準で有意な差が認められ、ns は有意な差が認められなかったことを示す。上果率及び障害果発生率はアークサイン変換後に t 検定を行った。

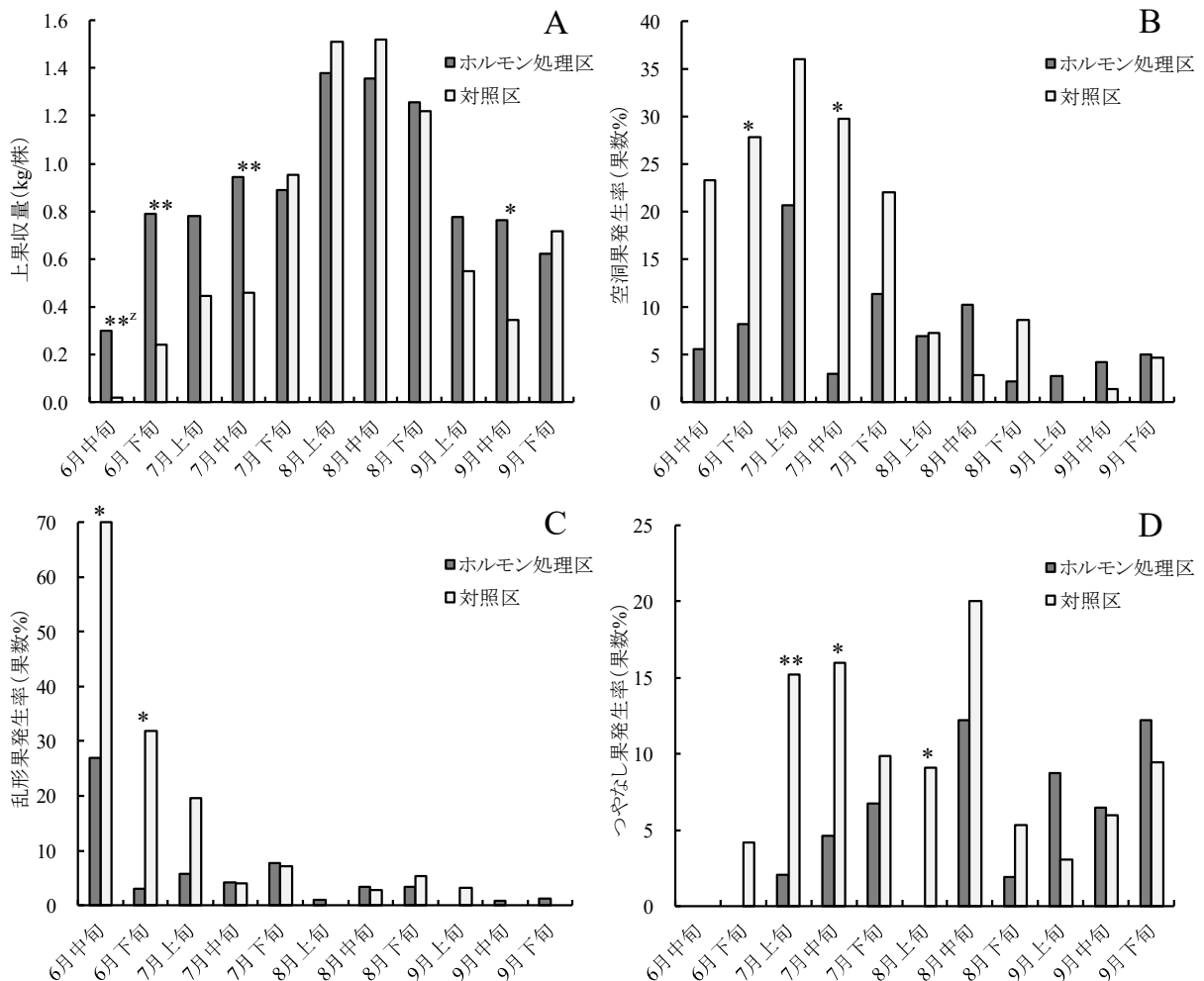


図 1 ホルモン処理が時期別の上果収量及び障害果発生率に及ぼす影響

(A: 上果収量、B: 空洞果、C: 乱形果、D: つやなし果)

z: t 検定により、*、**は 5%、1%水準で有意な差が認められたことを示す。

各障害果発生率はアークサイン変換後に t 検定を行った。(n=6)

[資料名] 令和元年度試験研究成績書

[研究課題名] ホルモン処理がナス‘サラダ紫’の収量及び障害果発生に及ぼす影響

[研究期間] 2018(平成30)年度～2019(令和元)年度

[研究者担当名] 小泉明嗣

[協力・分担関係]